

## 県立水戸第一高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】(令和6年度)

## 総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働きかせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようとする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問い合わせを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようとする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

## 学校の教育目標

- 真理を愛する学問第一の校風の下、質が高く、活気ある授業や課題研究、社会と連携した教育プログラムを展開し、生徒が切磋琢磨の姿勢で学ぶ学校
- 自主自立の精神を重視する自由な校風の下、生徒が何ごとも主体的に取り組むとともに、中高・学年の枠を超えて切磋琢磨する学校
- 至誠一貫・堅忍力行の校風の下、豊かな人間性や最後までやり抜く力を育むとともに、高い目標に挑む生徒をしっかりと支援する学校

## 各学校で定める目標と育成する資質・能力

- (1) 校風の理解や国際理解を通して学んだことを活かし、自らテーマを決めてその分野を調査研究することで、より大きな視点から知識と技能を獲得し、自らの進路希望実現に繋げることができる。
- (2) 自主自立の精神で先行研究と主体的に向き合い、自分の研究との比較対照から類似性や独自性・独創性について分析することで、テーマ決定の判断や研究内容を深く思考する資質を育成でき、多くの発表の機会を持つことで表現力を高めることができる。
- (3) 論文提出までの持続的な取り組みにより、主体的・協働的に学びに向かう力を、各講演によりリーダー気質を養うことで、本校の校風である「至誠一貫」「堅忍力行」の精神性をより高めて、よりよい社会を実現しようとする人間性を涵養できる。

## 総合的な探究の時間の学習評価

- (1) 探究活動の取り組みに対する自己評価に対してフィードバックを与えることで、探究活動の質的な向上を促すとともに、自己評価の妥当性を評価する。
- (2) すべての活動をポートフォリオとしてまとめておくことで自主的に振り返ることを可能にするとともに、探究活動の継続性・発展性を評価する。
- (3) 発表活動を「テーマ設定発表」、「中間発表」、「最終発表」の3段階で行い、その信頼性・妥当性・客觀性を高めるために自己評価のみならず、他者（グループメンバー・担当者・外部協力者）からの評価も取り入れる。
- (4) 発表活動は「論文形式」と「プレゼンテーション形式」の両方を評価する。
- (5) 課題の発見と解決までの一連のプロセスの中で示される「興味・関心・意欲・態度」、「社会や社会のあり方への考察の深度」、「社会に対する貢献度」、「自己の在り方・生き方の変革の度合い」を評価する。

## 生徒の実態

高い学力を有する本校生は、高いレベルでの文武両道を目指し、堅忍力行・至誠一貫の校風の下、様々な活動に意欲的に取り組んでいる。一方、学年が進むにつれ大学受験への準備に追われ、社会や自然との接点が希薄になることがあり、高いレベルで切磋琢磨するがゆえに挫折感に悩まされ、本来の能力を過小評価する傾向にある。

生徒の発達をどのように支援するか  
○配慮を必要とする生徒への指導

透明度の高い情報共有を目指し、各学年・生徒指導部・保健厚生部・養護教諭・スクールカウンセラー・外部指導者等との連携を密にする。必要に応じてじめ防止対策会議を開催するなど、様々な角度からどういう配慮が必要かを検討し、具体的な対応を見出す。さらには、中長期的に発達を支援する方法を探り、生徒の心身の健全な育成を目指す。

## 目指す生徒の姿

- (1) 水戸一高生として誇りを持ち、様々な教育活動を通して思いやりのある豊かな人間性を備え、進んで周囲へ貢献しようとする高い規範意識とリーダーシップを発揮できる生徒。
- (2) 学校行事・部活動・委員会活動への積極的参加およびその成果を学校全体そして広く社会へと還元できる生徒。
- (3) 探究活動を自らの資質向上のための機会と捉え、そのプロセスで自らの生き方や在り方に深い洞察を生み出し、自らの価値観を理想の社会実現に繋げができる生徒。

## 各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

## 1学年探究課題

- (1) 「探究テーマ学習」では、自然と社会との人間の関わりという観点から現代的な様々な探究課題を知ることで、自らの興味関心に基づくテーマへの絞り込みと論文構想を練る。
- (2) 「道徳」では、テキストや道徳講義から問題点を共有し、いかに道徳的に正しく振る舞うべきかをお互いに考え発表し合い、よりよい社会の形成者としての優れた判断力と新たな価値観の獲得につなげる。
- (3) 「パブリックリーダースクール」の理解学習で、社会における多様な価値観を知るとともに、グローバル化の進む現代において主体的な役割を果たす人間として生きる資質の基礎を培う。

## 2学年探究課題

- (1) 自分を含めた社会の問題として探究課題を設定し、問題解決の手法を具体的に考え、口頭発表や論文作成のプロセスで、目的を明確にして論理的に表現することを繰り返しながら自分自身の考えを深化する。
- (2) 教科を超えた探究課題へのアプローチを持続可能な開発目標(SDGs)を参考にしながら、再び大きな枠組みの中で捉え直し、自らを社会や自然と連絡する存在として認識し探究を深める。
- (3) 長期的展望を持って探究課題に取り組む中、個人やグループで探究を深め、適切な仮説を立てて情報収集・分析を行い、仮説を検証する。

## 3学年探究課題

- (1) 国語関連分野において、授業や行事で学んだことをもとに各自が自由に研究テーマを設定し、担当者の指導を受けながら主体的に研究を進める。
- (2) 理科関連分野において、授業や行事で学んだことをもとに各自が自由に研究テーマを設定し、担当者の指導を受けながら主体的に研究を進める。
- (3) 学問的な情報収集や分析の手法を学び、研究成果を口頭および論文で発表できるようにする。

## 学習活動、指導方法等

## 学習活動

- (1) 横断的に教員の助言を得られる環境の中、様々な教科との関連を大切にしながら、各生徒が独自の視点を大切にしながら探究活動を行う。
- (2) 参考文献を活用した先行研究の分析から課題を発見し、社会との直接の繋がりを意識してフィールドワークを行う。
- (3) フィールドワークによって得られた新たな視点をもとに、探究活動を深化させ、その成果を他者に伝え社会に還元する方法と態度を養う。

## 指導方法

- (1) 校内の行事やおよび校外での様々な活動を探究活動の動機付けや課題解決の手法の獲得に繋げる。
- (2) 各教科でもプレゼンテーションを可能な限り取り入れ、日常的に生徒の発表する力を養成する。
- (3) 課題解決に向けて持続的に向き合う姿勢を維持できるように、分野ごとに担当教師を配置する。
- (4) 発表は、クラスや分野単位を経て全校発表を行い、発信機会の多様化・発表目的の多様化を図る。
- (5) 専門家の意見に触れる機会を設定し、活動成果として作成する論文を、学問的探究入門として評価できるものになるよう支援する。

## 使用教材

- (1)『課題研究優秀論文集』(過年度の課題研究で優秀と認められた論文をまとめたもの)
- (2)『課題研究メソッド』(啓林館)

## 指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

- (1) 大学が実施する「高校生公開講座」等の高大連携の事業や、大学教員等を招聘して本校で実施している「文理・融合講座」、「探究力向上セミナー」、「心に火をつけるフォーラム(講演会)」等の積極的利用により、高度な学問に触れる機会を増やす。(教育改革部、進路指導部、各教科、各学年)
- (2) 探究活動の成果発表の場である「知識プロジェクト発表会」に外部の参観者を招き客観的評価が得られるようにする。(教育改革部、各学年)
- (3) 学校図書館においては、生徒や担当教員が必要とする各種関連資料の充実と、情報検索と著作権保護などメディアリテラシー学習への配慮を、学年指導と連携して進める。(図書部、教育改革部、各学年)
- (4) 教育改革会議を必要に応じて開催する。(管理職、教育改革部長、教務主任、進路支援部長、特別活動部長、外部有識者(議題に応じてオブザーバーとして適宜出席を依頼))
- (5) 各学年会議(毎月3~4回程度)で具体的な実施方法と内容について検討を随時進める。(各学年)
- (6) 総合的な探究の時間委員会(1月~3月)を開催し、次年度へ向けて「全体計画」の見直しと「年間指導計画」の作成を行う。(教務部、進路指導部、教育改革部、学年主任)